がいのがいの
 障碍・障碍者理解市民啓発事業 事業開催に至った経緯、過去事例と効果、積算根拠

健康福祉部 障碍福祉課

【事業開催に至った経緯】

平成29年（2017年）12月19日に国連総会で、毎年9月23日を「手話言語の国際デー」として決議されました。9月23日は、昭和26年（1951年）に世界ろう連盟(WFD)が設立された日です。

決議文では、手話言語が音声言語と対等であることを認め、ろう者の人権が完全に保障されるよう国連加盟国が社会全体で手話言語についての意識を高める手段を講じることを促進することとされています。

令和4年（2022年）の9月23日に、各国の手話言語を支援し、世界のろうコミュニティとの連帯を示すと同時に生活のあらゆる場面における手話言語の使用という、人権及びより平等な社会の実現を成し遂げることを目的に、あらゆる場所にブルーライトを照らす呼びかけが始まりました。ブルー（青色）は、WFDが昭和26年（1951年）の設立以来、使用し続けているシンボルカラーです。

本市は、平成28年（2016年）12月に宝塚市手話言語条例を制定し、手話への理解促進・普及に取り組んでおり、全日本ろうあ連盟からライトアップの協力依頼を受けたこともあり、令和4年度（2022年度）から実施しています。

【過去事例と効果】

令和4年度（2022年度）

手塚治虫記念館

令和5年度（2023年度）

大本山中山寺・ぷらざこむ1

スポーツセンター西側(宝塚中学校側)壁面

令和6年度（2024年度）

大本山中山寺

第二庁舎西側壁面

今後も公共の場所などを青色にライトアップすることで、手話は言語であるという理念のもと、きこえる人ときこえない・きこえにくい人がともに暮らす共生社会の実現に向けた啓発を継続的に行うことが大切であると考えています。

【積算根拠】

245,000円×1.1（税）＝269,500円

内訳：照明装置など使用料	24,000円
設営・輸送費	76,000円
スタッフ費用（当日及び事前準備含む）	145,000円
合計	245,000円